

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100231		
法人名	社会医療法人 健友会		
事業所名	グループホーム星取	ユニット名	
所在地	長崎県長崎市星取2丁目2-43		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年1月27日	評価確定日	平成26年2月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「星が取れるくらい夜空が美しい」と例えられるこの町は丘の上にある住宅地で、入居者様は地域自治会の会員として暮らしています。所帯は、入居者様9名・職員8名。1階は通所デイで、一緒に行事を行ったりにぎやかです。地域の皆様からは、花や野菜の差し入れがあり、地域夏まつりや敬老会・バザーなど、ご家族も一緒に参加して頂き、地域交流を楽しんでいます。日常生活では、入居者様のご希望に添い、ご自分のペースでゆったりと安心して過ごして頂けるよう支援しています。また、ホームにはアイドル犬がおり、餌やりの役目の方・抱いてかわいがる方等、とてもにぎやかです。当ホームでは、ご家族・地域・ボランティアの皆様のご協力のもと、毎月外へ出かけています。長崎市の行事「おくんち」や「ランタン」・お買い物などは好評です。ホーム内では、リクエスト食で皆様のご希望の食事を作ったり、毎月の生け花教室で生花を愛で喜ばれています。医療では、週5日の内科往診で緊密な連携を行う事ができ、歯科往診も月2回、歯みがき指導なども適宜受け、連携強化を図っています。入居者様全員が笑顔で過ごすことができるようスタッフ一同 寄り添っていきたくと考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム星取”では、ご利用者の心身状況を丁寧に把握し、日々の生活リハビリを続けている。下肢の筋力が付き、トイレでの排泄に繋げる事ができたり、湯船に浸かれるようになった方もおられる。ご利用者全員の思いを把握する取り組みも続けられ、要望が聞かれない方も、生活歴を大切にしながら雑巾縫いなどをして頂き、ホームのミニバザーに出品する事ができた。“誰かに使って頂いている”“誰かの役に立っている”と言う喜びを感じて頂く機会が作られている。“楽しむ”ことも大切にされており、毎月の外出と共に、釣りが好きな方は地元の海にドライブし、喜んで頂く事ができた。テレビを見ながら「平和祈念像に行きたい」と言う言葉が聞かれた時は、平和祈念像の前で献花を行い、祈りを捧げる姿が見られていた。25年度からは“音”に関する研究を始めており、常にご利用者の立場に立ち、「安全」「のんびり」「活き生き」と、その方らしい生き方の支援を続けているホームであった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年実施しているバザーは、雨天になりがちな6月から10月に変更し、晴天の中行う事ができました。今年も、自治会に回覧板を回し、当日は拡声器で地域へ案内。駐車場を使って職員手作りの小バザー。おはぎや煮物は地域の皆さんに早々に売れ無料のヨーヨーは子ども達や年配者にも好評でした。座って頂くスペースを作り、セルフのお茶のおもてなしにご家族もゆっくり入居者様と向き合っておられました。	研修を受講した職員から、「再度、理念を考えたい」と言う意見があり、職員全員で一つ一つの理念の意味やケアの視点などが話し合われた。今後のケアの方向性も明確にする事ができ、日々の生活に活かされている。毎月の行事では、家族と地域のボランティアの方と集う機会にもなっており、楽しいひと時を過ごされている。	重度化されているご利用者もおられ、職員の方々も「日々のコミュニケーションを深めていきたい」と考えている。理念にもある「のんびり」できる時間を作り、食事のひと時も含めて、ご利用者と職員が、ゆったりと過ごせる場を増やしていく予定にしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶をきちんと、明るく行う事。地域の行事準備の際は参加しお手伝い。日常的に遊びに来て頂く。おたよりを近隣に毎月配布。介護学生の受け入れ。気候の良い時期は廃品回収に入居者様と参加。など継続しています。	25年度は、ホームの敬老会に系列のこぼと保育所の園児が来られた。婦人部の踊りと共に、「樺島文化を守る会」の方も伝統芸能(三味線や踊り)を披露して下さい、皆さまも喜ばれた。ホームの“そうめん流し”では、地域の方が4mの竹を持ってきて下さったり、自治会の敬老会にも2名のご利用者が参加し、ご馳走を楽しまれた。	ホームの上が土砂災害警戒区域であり、26年1月には自治会で勉強会が行われた。25年度には災害マップの作成も始まり、26年度には地域の避難訓練も予定されている。今後も、地域の方々との協力体制を強化し、ホームでできる支援をしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣には、毎月「おたより」を配布し、「相談など気軽にお越し下さい。」と案内しています。運営推進会議では、皆様のご様子を報告・学習会なども行い発信しています。地域からの相談があった時には、包括支援センター・他施設などを紹介したりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、貴重なご意見を頂き、職員にフィードバックしてサービス向上に生かしています。	敬老会や望年会の時はバイング等を行い、交流を深める機会が作られている。参加者の方からは積極的な意見を頂いており、外部評価の結果も報告し、多くのお褒めの言葉を頂いた。防災に関する意見も頂き、火災報知器が鳴る際に、直接、地域や職員に電話連絡が入るように設定された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「ホーム便り」の送付・運営推進会議での情報交換・一人暮らしの方の情報、相談など連携しています。	管理者が長崎市GH協議会の監査役をしており、市の方との意見交換を続けている。ご利用者との関わり方も相談し、障害福祉課(ソーシャルワーカー)からのアドバイスも頂く予定になっている。運営推進会議には地域包括職員や市の保健師が参加して下さい、季節に応じて「感染防止」の講和をして下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」ホームの方針はスタッフ一人一人に定着しており、日常生活の中で、入居者様が笑って暮らして頂ける事を考えケアを行っています。施錠はしていません。	他の施設で行われた虐待事例を共有した際も、職員全員から「考えられない」と言う言葉が聞かれた。“星取”のご利用者の方々は穏やかに過ごされているが、「日頃の言動は、ご本人にとって快ち良いものであるか」「馴れ合いになっていないか」などの振り返りをしている。今後も、丁寧な対応を心がけていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今期は、虐待防止について、グループホーム協議会・系列学習会・研修会と学ぶ機会が多くあり、検討していきました。気づきなど出せるアイテムとして「心をひとつに」接遇箱を設けました。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援については、在宅復帰を希望されたT様の支援を行い、自宅へ帰られた後も、おたよりを送付したり、ショートを活用して頂き相談を受けるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様が入所・退所の際は、それぞれの方に不安がないよう契約の説明・対応を行いました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族・地域の皆様のご意見や要望は、日常生活の中・面会時・運営推進会議時など、あらゆる機会にお話を伺い、運営に反映させたいと考えています。(職員一同)	家族からの希望もあり、家族との連絡はメールも使われている。面会時の会話も大切にしており、外出への要望も頂き、平和公園等にも出かけている。「もう少し間隔を空けて・・・」など、ホーム内の写真の貼り方の意見も頂き、参考にさせて頂いている。ご利用者の方々はカラオケ好きな方が多く、皆さんが歌える環境を増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、意見・提案を聞き、カンファレンスで反映させるようにしています。	日々の業務の中で職員のアイデアは多い。朝の申し送りやカンファレンス・報連相ノート等で情報交換が行われ、管理者が前向きに受け入れている。「介護 うまくいっただ！ うまくいかな〜い」ノートも準備し、今後も活用予定にしている。料理上手、企画が得意など、職員個々の能力を発揮して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、介護職自体が低い水準にあり、頑張りに見合っていないと考えます。今後も国の施策に訴えと共に、やりがいのある職場になるよう、適切な残業などの手当・福利厚生・公休・年休は希望を最大限に受け入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は随時希望が出せるようにし、参加を保障しています。法人の新人・5年目・中堅・リーダーなど各研修に参加。実践者研修に2名参加。月1回ケアカンファレンス時に研修のフィードバックを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム連絡協議会において、役員としての役割を担い、スタッフも担当者を中心に研修会や懇親会に参加しています。法人内でも介護部会を通して事例報告・研修に参加しています。		



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込みの時は、見学をして頂き内容を説明し、不安な事やご要望について把握しています。また、家庭訪問や関わりのあるケアマネ・介護担当者との情報交換を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の見学は多く、現状をお尋ねする中でご不安や疑問などにお答えし、お茶して頂く事もあります。申請された後は8月・1月頃におたより・アンケートを送付し、緊急性はないか、お困り事はないか、現状などお尋ねし信頼関係を持つようになっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前まで受けていたサービス関係者からの情報収集やご本人、ご家族との面接、センター方式作成などから必要なアービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いや縫い物など、出来る方にはお手伝いをして頂いている。生活の色々な場面において入居者様に意見を聞きながら、話しを進めていくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「日常のごようす」のお便りで、ご本人の状況をお知らせしている。面会時やプランの説明時、ご意見を聞きながら、ケアを検討している。外部の病院受診や必要な外出時は、可能なご家族へ付添いをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へは毎回行事のお誘いをしています。誕生日には、ご本人が行きたい場所を探りながらの外出の支援を行い、面会はお家族だけではなく、知人もおられるので、後日ご家族には、面会があった事をお知らせしています。	敬老会やバザーで、馴染みの方とお会いする事も多い。外出の時は馴染みの市場などに行き、ご利用者とお話をしながら外出を楽しまれている。併設の通所サービスに馴染みの方もおられ、時々訪問して交流をしている。昔を懐かしむために“昭和館”にもお連れし、誕生月には馴染みの場所へのドライブも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性入居者様の中には入居者様同士、仲の良い関係を築いておられる方もいます。談話やレク時、気がけて孤立しないように声をかけたり、言葉で表せない方は、間を取り持ったりしています。また、トラブルになりそうな時は、ひどくならないようにアプローチするが、うまくいかない時もあります。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ショートステイを利用できるようになっており、25年度は、退所された利用者様が1週間利用されました。毎月、おたよりは送付し、繋がりを継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言動から気持ちを読み取るようにしたり、ご家族へも相談したりしながらご本人の意向を把握するようにしています。食事については、毎月、リクエスト食の日を作り、入居者様の食事の希望を聞いています。	センター方式を活用し、生活歴や特技を把握している。「外に出たい」「実の生る苗を植えて収穫したい」と言う思いも伺い、計画にも盛り込まれている。意思疎通が難しい方も、ご本人の意向を察し、新聞折りや雑巾縫いなどをして頂き、「誰かが使って下さる」喜びに繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居初めにご家族・ご本人へ聞き取りを行いセンター方式で把握するようにしています。同時にそれまで利用していたサービスの関係者からの情報収集、入居後もその都度、会話の中から把握したり、ご家族面会やプランの相談時、情報を頂くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月1回、入居者様全員のケアカンファレンスを職員全員参加で行い、一人一人の状況を共有し、アセスメントの見直しに反映しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について、毎月1回全職員でケアカンファを実施し3か月に1度はケアプランの見直しを行いご本人を交えてご家族と話しご意見を伺っています。担当者会議では課題の検討を行っています。	計画には、「編み物をする」「婦人部の缶拾い」「買い物に行く」「モンちゃん(愛犬)と遊ぶ」「野菜の苗植え」「新聞折り」など、ご本人の役割が盛り込まれている。生活支援計画書も作られ、声かけの仕方も明記している。行動障害に関しても「気分が昂ぶっている時は」などの表現を使い、ご本人への配慮が伺える計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやカルテへの記録により情報を共有。大事な事は青字で記載することにより見落としを防止。又、報連相ノートも活用しています。計画の見直し時には、それらの記載からケアの変更に結びついています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨時受診はご家族に連絡の上、臨機応変に受診体制をとったり、面会の方とも一緒にお食事を召し上げて頂いたりなど、その場に応じて対応する事は多く、スタッフは入居者様にとり何が今大事で、何を支援するかをそれぞれが柔軟に考え取り組んでいます。ご家族との関わりが少なく、面会に来て頂けない方は、代理で必要物品の購入をする事もあります。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様全員が個別に自治会へ加入しており、自治会の催しや缶拾いなどの行事に参加。逆に、ホームでの行事には自治会や地域の方にも参加ご協力頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は、大浦診療所若しくは上戸町病院の医師が主治医で、歯科は野島先生から定期往診を受けています。希望すれば、かかりつけ医を変更することも出来ます。耳鼻科・皮膚科等は外部病院にご家族付添いで受診。	職員の観察力も増しており、管理者(看護師)に適宜報告が行われている。往診時(週5回)は、ゆっくり診察して下さり、職員も心配な事を相談できている。車いすを利用されていたが、「治療に行きたい」と言う思いでリハビリ頑張る、巡回バスに乗れるまでになった。バスまでは職員が送り、診療所前で家族と合流する方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段からカルテに状況を記載し、薬や症状への対応の仕方を都度相談しながら介護にあたっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人である事から入院の多くは事業所関連の病院であり、必要時は情報をもらう事ができます。退院前には、ご家族・医師・看護師・ホームの職責者などのカンファレンスがあり、方針を検討し決定する事ができます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方については、入所時「看取りの指針」を提示し紹介しています。ターミナル期にあつて医師の診断のもと、ご本人の意向を汲み、ご家族・関係者と相談し方針を決めチームで取り組んでいます。	管理者は訪問看護の経験もある。終末期ケアに向けた話し合いが続けられ、ご本人の希望があれば、最期まで精神誠意のケアをさせて頂いている。「自宅に帰りたい」と言うお気持ちを察する事ができた方には、管理者も自宅訪問し、主治医の支援もあり、家族に囲まれて自宅での看取り支援が行われた。ご本人からも「帰って良かった」と言う言葉が聞かれ、葬儀には職員全員で参列させて頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	4月には、普通救急講習会を地域にも発信して実施し、職員6名・地域6名が研修を受けました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご近所・職員から5名が災害時の協力員として登録し、訓練時は地域・自治会からも参加があります。星取自治会では災害マップなど制作準備中です。	長崎のホーム火災後、9月から毎月訓練を行うようになった。地域の方も一緒に昼夜想定で訓練を行い、地域の方から「家から毛布を持ってくる必要を感じた」などの意見を頂いた。25年6月には消防署、25年12月には防火センターの方と訓練が行われ、災害に備え、飲料水や缶詰、ラジオ等が準備されている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声をかけるときに強制や上から目線の言葉使用をしないように気をつけています。排便状況を伝える時は、コート・ハルンの言葉に言い換える等の工夫をしています。しかし、急ぎやとっさの場合まだまだスピーチロックが十分ではありません。	「ご利用者には人生の先輩として敬意を払い、言葉掛けや態度は優しく丁寧に、笑顔で接しましょう」と、管理者が伝えている。職員は、ご利用者への思いやりが強く、言葉遣いにも配慮している。人権尊重や接遇などの法人内研修にも参加し、“初心に立ち返る”事も大切にしており、情報管理の徹底も図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身から希望を言い出せない方には、いくつかの選択肢から選んで頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見る方、居室で過ごされる方、テーブル自席で過ごされる方等、各自落ち着ける場所で過ごして頂いています。何かをする時は声かけはしますが、強制はしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時に洗面、整容を行い、洗面不可の方はおしぼりにて顔を拭いて頂きます。ボタンがはずれていたり、掛け違いなどその都度気付いた時直すようにしています。外出やイベント時は、女性入居者様にお化粧品を支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエスト食では、入居者様に希望をとり作っています。食事の配膳や食器洗いを手伝って頂いたり、時には皮むき等調理の手伝いもお願いしています。	昼と夜は宅配を利用している。月2回のリクエスト食は希望を伺い、ご利用者と一緒にチキンカレーやちらし寿司などを作っている。敬老会や望年会は、家族や地域の方も一緒にバイキングを楽しまれている。ミキサー食を提供して下さるお店で外食を行い、お弁当を持参する時も、ミキサー食を持参する事で、全員で外食を楽しむ事ができている。	ご本人のペースでゆっくりと食事をされており、職員も笑顔で同席し、食事介助をされている。食事の音に関しても研究中で、今後も更に、家庭的な雰囲気の中で“食事を一緒に楽しむ”方法を、職員全員で検討していく予定にしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食のうち2食はタクシヨクによる食事で、食事の内容が偏らないように提供しています。毎食食事量をチェック表に記入しキザミヤトロミ・ミキサー食とその方に必要な形態で提供・支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台へ案内し口腔ケアを実施。個々に合わせ、出来ない部分を介助。中には、お茶(カテキンでの殺菌作用)でうがいを頂く方もおられます。毎晩義歯を洗浄剤に浸け、週1回は歯磨きセットをハイター消毒。また、2週毎に歯科往診にて定期的にチェックを頂いています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレの声かけと誘導を実施。排泄の意思を伝えられない方は、便、尿意のサインを察知するようにしています。	個別の誘導で失禁も減っている。パッド自体に抵抗がある時は、安心パンツをお勧めしている。“手の震え”が排便サインと言う事を職員がキャッチし、トイレに誘導する方もおられ、排便が成功した時は、「いい便ですね。上等ですね」と伝えている。筋力が付く事で膝の痛みが軽減した方もおられ、トイレでの排泄に繋げる事ができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のコントロールは便秘薬にて行っています。水分も十分摂って頂くよう促し支援。トイレでは、腹部・肛門部のマッサージ・摘便を行い便秘対策を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日入浴で、入浴前に声かけをし、了承を得るようにしています。時間を尋ねる方にはおおよその時間を返答します。中には、便失禁の保清や意思の確認が取れない方もおられ、一部、職員側の都合である場合もあります。	柚子湯や菖蒲湯なども行われ、入浴時は職員との会話を楽しませている。入浴を拒まれる時は無理強いせず、「温泉へ…」などとユーモアを交えた声かけをしている。筋力アップを行う事で、職員の介助のもと、湯船に浸かれるようになった方もおられる。洗える所はご自分で洗われており、シャワーも使用し、安全に入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の入眠時間は経過一覧表に記載。状況はカルテに記載します。情報は申し送り報告。入居者様の状況を把握しながら、不眠の方や日中倦怠感や傾眠が現れている方は、都度居室のベッドで休んで頂きました。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	不明な点は主治医・看護師・薬剤師などに相談しながら、薬の内容を把握。処方の変更時は、報連相ノートやカルテに記載し全職員で認識するようにしています。服薬後の症状を観察し、状況をカルテに記載。問題がある時は主治医に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみ等を手伝って頂き、職員は謝礼を必ず言うよう心掛けています。入居者様は役に立つ喜びを感じておられる方もいます。バザーでは、雑巾を作って頂きました。レクリエーションでは、気分を盛り上げるよう風船バレーや歌を取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月全員での外出を設定。その際、ご家族や地域の方にも参加をお誘いし協力を頂いています。誕生日のお祝いでは、ご本人の希望の場所に行く事もできました。釣りが好きな男性入居者様は、海を見に行くことで満足感を得ることができました。	毎月の外出を楽しみにされている。ランタンやくんち見物、伊王島や香焼、稲佐山等にお花見に行かれたり、式見ハイツでの観劇も楽しまれた。外出時は家族やボランティアの協力も頂き、一緒に楽しまれている。家族と自宅で食事をされる方や、毎週、馴染みのガイトヘルパーと買い物に行かれる方もおられ、投票も楽しみに行かれている。	



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ですが、ご自身で所持され、外出先やイベント時、職員が見守る中で、買い物をされる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時は、相手に確認後電話でのやりとりをして頂いています。年賀はがきは、5名の方のご家族へ出される支援を行いました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間、食道、浴室には窓があり、カーテンによって遮光の調節ができます。温度は窓の開閉やエアコン・床暖房で調節。季節ごとの飾り付けや生花。また、窓からは畑や木々、畑で働く人などが見れ、季節を感じることが出来ます。	限られた空間の中、ご利用者同士の関係も考えた場所作りを続けている。生け花教室も好評で、季節の花が飾られ、セラピー犬のモンちゃんも癒しになっている。ご利用者個々の心身状況を考慮し、食事を摂りやすくするために、テーブルの高さの調整も行われている。テラスのプランターで野菜を育て、ご利用者の方が収穫などをして下さっている。加湿のために、室内に洗濯物を干している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にテーブル席だけではなく、テレビ周辺に種類の違うソファを置いているので、座りたい席を選ぶことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのある家具や小物などをホームの居室でも使って頂き、自宅で過ごされている雰囲気味わって頂いています。箸はご自分の物を使っておられます。短期記憶障害の方には、スタッフ・入居者様の写真を壁に貼り、不安がないようにしています。	居室には家族との写真が飾られ、会話のきっかけにしている。自宅から椅子や筆筒、大切な仏壇を持ち込まれている方もおられ、大好きな演歌のCDを居室で聞かれる方や、編み物をされる方もおられる。居室から自宅が見える方は、毎朝、家族と手を振り合う姿も見られている。できる範囲、ご自分で片づけをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩ける方は、安全に歩行できるようにホーム内の各所に手すりを設置。トイレがわかりやすいように「便所」の表示をしています。ご自身のペースでの生活を望まれている方に対し、1日の流れの時間を壁に貼ることで生活のリズムを掴んで頂いています。		